

(様式2(1))

事業所名 グループホーム希の丘

目標達成計画

作成日: 令和2年8月30日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】				
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容 目標達成に要する期間
1	10-9	入居者家族との良好な関係を築けてはいるが、感染症対策のため面会が減少し、家族の意見を反映するための意見交換や情報交換の場が少なくなっている。	感染者数の推移や行政指導に基づきながら、面会の方法や家族と意見交換する場を設ける。	行政指導に基づきながら、家族との意見交換の場所、オンラインや電子メールなどを使用し、対面ができない状況であっても細やかなコミュニケーションが行えるように努める。 12ヶ月
2	26-13	新型コロナウイルス感染症対策のため、家族と直接話す機会が減り、電話で意向を確認することが多くなっている。このような状況下においても、家族に介護計画において主体的に参加できる取り組みが必要である。	感染者数の推移や行政指導に基づきながら、面会の方法や家族と意見交換する場を設け、家族がより主体的に介護計画に参加できる。	行政指導に基づきながら、家族との意見交換の場所、オンラインや電子メールなどを使用し、対面ができない状況であっても工夫して、介護計画の内容を細やかに説明できるように努める。 12ヶ月
3	4-3	コロナウイルス感染拡大予防対策のため、運営推進会議を対面にて開催することが難しい状況のため招集を見合わせ、ホーム長が各メンバーに電話で議題の内容を伝えて意見を聞き取り、その内容を記録してホームに備え置く対応を実施している。	感染者数の推移や行政指導に基づきながら、電話以外の方法や対面での会議運営を目指す。	行政指導に基づきながら開催方法を検討する。メンバー間で情報共有できる方法を模索する。 12ヶ月
4	35-17	立地的に水害、土砂崩れのリスクは比較的少ない地域性があるが、災害時の避難場所や避難手順のマニュアルが十分とは言えない状況がある。	ハザードマップで地域の状態を知り、入居者の避難場所や避難の手順を決めたマニュアルを作成し、災害時でも安全に避難できる。	災害時の避難手順、避難場所が示しているマニュアルを作成する。職員の連絡網、災害時においてもケアが継続できる体制の構築を目指す。 12ヶ月
5				ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。